

様式第3号

## 会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成26年度 第6回 川西市社会教育委員の会	
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 社会教育室 (内線 3421)	
開 催 日 時		平成26年2月26日(水)10時00分～12時00分	
開 催 場 所		市庁舎 202会議室	
出 席 者	委 員	生田議長、安藤副議長、末澤委員、岡田委員、田中委員、廣末委員、米田委員、真鍋委員、岸本委員 計9名	
	そ の 他		
	事 務 局	森下総務調整室長、上中学校教育室長、柳川社会教育室長、岸本中央図書館長、仲岡中央公民館長、井口こども・若者政策課長、沼人権推進室長兼人権推進課長、井上社会教育室副主幹・西垣(囑託職員) 計9名	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数 0名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第		1. 開会 2. 前回会議録の承認 3. 報告事項 (1)阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会の報告について (2)各協議会の会議報告について (3)その他 4. 議題 (1)平成25年度年間研究テーマ「地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方」について (2)その他 5. その他	
会議結果		別紙のとおり	

# 審 議 経 過

NO.1

議長	<p>只今より第6回の社会教育委員の会を開会する。今日の出欠について、仲委員が欠席されている。</p> <p>開会にあたり、教育委員会事務局の方から挨拶をお願いしたい。</p> <p style="text-align: center;">(総務調整室長挨拶)</p>
議長	<p>続きまして、こども家庭部から願います。</p> <p style="text-align: center;">(こども・若者政策課長挨拶)</p>
議長	<p>会議に入りたいと思うが、まず2の前回の会議録の承認について。</p> <p style="text-align: center;">(承認)</p>
議長	<p>それでは、次に3の項目の報告事項について、(1)阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会について事務局から報告をお願いする。</p>
事務局	<p>(1)「阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会」について</p> <p style="text-align: center;">日時平成26年2月7日</p> <p style="text-align: center;">会場伊丹市立総合教育センター</p> <p style="text-align: center;">講師滋賀大学社会連携研究センター教授 神部純一氏</p> <p style="text-align: center;">講演テーマ:「地域・家庭・学校をつなぐ社会教育のあり方 ～学びの成果を活かす方策を考える～」</p>
議長	<p>参加された委員から意見、感想を頂きたい。</p>
B委員	<p>社会教育委員として何ができるかということで、自分の経験などを伝えること、「口コミ」という話が印象に残っている。改めて社会教育委員はパイプ役であることを実感した。</p>
E委員	<p>「三方よし」という、売り手と買い手と世間のそれぞれが良いと感じる商売をしなければならないという近江商人の心構えを紹介され、まさに神髄だと思った。学校が買い手で地域が世間、売り手がボランティアで学校支援地域本部事業になっている。それらが上手くつながっていくには、学校を中心にする部分が多く、学校を核にした繋がりをどう作っていくのかという今日的な課題を考えさせて頂いた。お互いが知らないとなぎ様がないという事で、「しが学校支援センター」ではボランティアがどのような事ができるのか、実際に教える場面を見て頂くという実践をされている。</p>
議長	<p>学校教育現場の皆さん方に学校支援地域本部事業についてよく理解して頂く必要があるという事を思った。</p> <p>続いて、次の項の(2)について、各協議会にご出席して頂いている委員の方で、なにかあればお願いしたい。</p>

## 審 議 経 過

NO.2

B委員	<p>私は、川西市生涯学習短期大学のレフネックの修了式に参加し、皆さん、にこやかでやり切ったという顔で卒業されていった。川西には良い機関があるなどあらためて実感した。</p>
C委員	<p>PTCA フォーラムに毎年行かせていただいているが、学校の様子などが生徒さん方の活動の中によく見て取れる。年々、打ち出し方が変わってきており、かなり努力して企画されているようで子ども達と学校が一丸となって取り組んでおられるように見受けられた。</p>
F委員	<p>青少年センターの運営委員会が2月12日にあり、25年度事業の総括と26年度の事業方針という内容であったが、昨今、色々と情勢が変わり、難しい世の中になって来た部分がある。なかでも問題行動を繰り返して起こす子どもの背景には様々な要因があるが、共通して言えるのは、家庭の問題で、子育ての部分が欠落していると感じる。小学校長会の先生から、あまりにも幼い時に子どもを生んでしまったために、お母さん自身が成長しておらず、そういうお母さんが子育てをするという事で、小学校の方でもまず母親の教育ということを考えないといけないという話があった。子どものみならず、保護者への支援を行う重要性を感じた。また、携帯、スマートフォンの普及に伴い、色々な問題が生じて来ているが、それをうまく活用していく方法を覚えるとともに、危険性ということも子ども達にしっかりと教えていかななくてはならない。</p>
H委員	<p>地域で色々な行事を計画して頂いて、そこにできるだけ子どもが参加できる様に、担任からも呼び掛けたり、チラシも配るだけではなく、地域でどういう活動をしているのかということ話し、またお世話になっていることも伝えていこうとやっている。</p> <p>地域の方も色々計画をして下さるのだが、子どもが失敗しない様、楽しい思い出になる様、少しお膳立てをし過ぎているのではないかという事もよく出ている。また学校も子ども達に色々なものを与え過ぎているのではないか、という事も言われている。もっと苦労しながら難しい場面もやっていくという事も必要で、その方が後の印象に残ったりするのではないかという事も課題として出ている。</p>
B委員	<p>子ども達と大人と一緒に作り上げていくということで市制60周年記念ミュージカルの『続・川西の金太郎』、12月に開催する。開催するにあたり、出演者の募集をしており子ども達と大人とで作り上げていくこのミュージカルにぜひ参加して頂けたら嬉しい。</p>
議長	<p>「川西市子どもの人権オンブズパーソン」2013年の活動報告会を3月21日に「子どもの声を受け止め希望を掲げる社会を作るために」というテーマで開催されるので、社会教育委員の皆さんもぜひ出席頂けたらありがたい。</p> <p>それでは、4番目の議題に入る。年度当初にお話した様に、各委員は独任制であるという事から、レポートを1つにまとめて市の方へ提出する予定である。また、6回にわたる論議を経過報告として作り、教育委員会に提出する。その後、それがどうなっているのかということがあろうかと思うが、こういう形で提出する事は行政にとっても有意義であろうという基本的な捉え方である。それでは、委員として独自に考えていっしょのことを、発言して頂きたいと思う。</p>
B委員	<p>「地域の中心の公民館」ということで、各地域に公民館がある川西市は、それだけ充実しているのだから、その公民館で魅力ある講座をして頂きたい。その地域のニーズに合った魅力のある公民館講座を考案する公民館の運営委員会の設立を望む。地域に対して愛がある人を育てる講座や地域を好きになる講座、地域を知る講座を実施するべきである。そして、市の事業と公民館</p>

	<p>を結びつける講座であるべきである。また、公民館が人を育てて学校へ人材派遣する。研修会で話のあった福岡県の「高齢者はつらつ活動拠点事業」は、公民館と連携を持ちながら社会教育、学校教育行政に地域の住民、地域の学校長、それからボランティアグループ、コーディネーター、公民館職員等で構成された実行委員会が公民館講座の企画運営に当たるとともに、その地域の学校が必要としている学校支援ボランティアの養成を高齢者の社会参加活動促進も踏まえてピンポイントで講座をし、そこで養成した講師やボランティアの方を学校に派遣されている。高齢者の社会参加活動促進を踏まえたボランティアなので、高齢者の地域の中での居場所もでき、また、生涯教育につながり、子ども達とも交流できるというところで、社会教育の面で良いと思った。川西市には川西市生涯学習短期大学の「レフネック」や中央公民館の「高齢者大学」があり、その成果を地域に活かしていける場があればと思った。私としては、社会教育委員として郷土愛を育て、生涯教育を促進しながら、3世代交流の場を通して子ども達に礼儀や相手を思いやる気持ち、心の教育をできる様な何かを実施したいと思っている。今年の12月に実施する市制施行60周年記念ミュージカルの『続・川西の金太郎』は、今、言ったことをすべて踏まえたミュージカルかなと自負している。</p>
<p>C委員</p>	<p>教育委員会から「川西の教育」を頂いたが、今、世の中で言われているのに、その言葉が一つも出てきていないのが、「道徳」という言葉である。日本人の根底をなす所の道徳教育をしっかりする事で、世界に誇れる素晴らしい精神や人間性が育まれる。道徳教育というのは、古い言葉であるというのは、これは逆に古いと思う。これを今、しっかりと考えてやる事、これが世界に向けて日本を発信する大きな問題ではないかと思う。もう一つは、郷土愛を育てていくのは非常に大切であり、それはつまり日本の伝統文化を大切にすることだと思ふ。日本の伝統文化と言えは何か道(どう)なるものがそうだが、それを進めていくことで世界に誇れる日本になるのではないかと思う。学校においても日本の伝統文化を子ども達が学べる様な学校環境にして頂けたらありがたいと思う。</p>
<p>議長</p>	<p>H委員さんには道徳に関して教育現場の話もよく報告して頂いているがいかがか。</p>
<p>H委員</p>	<p>社会教育の役割とは住みやすい地域社会を作ることだと思ふ。生きがいを感じる社会と心がつながる社会を作ると、周囲にも発信をしていけるそういう会であればという事で書かせて頂いた。まず、地域の行事に参加する事で交流が生まれたり、それを計画するために参加することで自分の居場所が見つかったりするので、学校もそういうことを中核になってやっていければということ。2番目に心がつながる社会とは、人への感謝の気持ちや思いやりの気持ちをしっかりと育てていかなければという事で、学校もそういう役割をしながら、道徳教育の大切さという事を伝えていかなければいけないのではという事である。道徳教育が少しおろそかにされているのではないかと、ということだが、道徳教育の研修会があるが、最近では、会場に入りきれないなど、道徳教育はやはり進めていかなければいけないという意識がものすごく高まってきている。私たちも伝えていかなければいけないという事で、地域の青少年育成市民会議で、今の子どもの実態を話しながら、自分で責任を持って行動し、相手の気持ちを理解するなど、そういうものを育てていく事が必要だという事を話すとともに道徳教育でどういう事が項目にあがっており、また、どういう狙いを持っているのかを話をさせて頂いた。またPTAの集まりでは、具体的に道徳の資料を提示して、授業の流れを話し、学校の方も道徳の授業を色々工夫しながらそういう大切な心を育てるといふことをしていることを伝える様にしている。</p>

## 審 議 経 過

NO.4

C委員	研修会などは一般の者はいれないのか。
H委員	別にそれは構わないですよ。
C委員	研修会の情報は入ってこないのだが。
議長	学校、そして教育委員会も、家庭教育と地域教育とのつながりから社会教育委員にも学校教育現場を知って頂くということで案内をすとか、市民に開放していくとか、そういう事が必要ではないかと考える。開かれた学校という視点もあるかと思う。
E委員	<p>道徳という言葉すらも授業の一コマに使われなかった時があった。社会が変わり、人間の関係や人間が人としてどう生きるべきかという一番大事な根幹が大きく揺らいできた。日本人として大切な先ほど道(どう)という言葉で言われたが、その辺りの生き方の骨になる部分というのを育てていかなければと、新教育基本法になった平成18年から、伝統と文化を尊重し、またそれらを育ててきた我国と領土を愛する心を養うという事が明記される様になった。地域の民生委員、児童委員もさせて頂き、かつて保護者であった方達と話をしながら思ったことは、学校に対する信頼感もあるが、不信感も非常にあり、それがつながりを阻害している事の一つになっているのではないかとということである。先ほど意見にもあった様に学校だけではなく、この会も含め色々な所をオープンにすることで、様々な人に色々な事を知っていただくとともに、学校も我々も教育行政の方もどういふふうに使われているのかという事を知る事があるのではないかとと思う。学校というのはやはり限られた社会で、少しでも垣根を取り払っていかねばならない。もっと信じる人に入って来て頂くということで、ボランティアの方を活かせる様な学校づくりをして貰えたらと思う。私が言いたい1点目は、市のホームページには、生涯学習という言葉をどのように捉えてどうしていくのだというビジョンが発信されていない。生涯学習というのは生まれてから死ぬまでの終身においてなされる学習の全てで、学校教育というのは、生きぬく力、涵養する場で、生涯学習の中核的なステップの段階であるという様なことである。家庭教育にはじまって地域とつながった学校教育、それから住民がより暮らしやすい地域、国づくりへのステップアップにつながる。「川西の教育」では、地域づくり、郷土を愛するというくらいまでは市の教育の方針にはあるが、それから先の良き国づくりへのステップとして、国家、社会を担う精神を養うということが一言も表れていない。ステップが途中で切れるのではないかと気がするのでもっと発信をするべきである。2点目は、日本人というのは自分に自信がない子どもが多い。自国の歴史や伝統文化を聞かれても外国人の方がよく知っているなど、そういうことは恥ずかしい事なのだというふうに自戒を含めて思う。しかし、土台は基礎的な教育なので、学力をつける事が一番大事である。学力をつけるのにも、今やっている事がどの辺くらいまで定着しているのか、より広い地域での自分の力の段階を知り、位置を知る。教師も教えた生徒がどの位のレベルであるのかという実情は掴み、教え方について教師同士が切磋琢磨することが子どもにかえていくと思う。学力の格差が経済的な格差と同じであるというような事がよく言われるが、そうはならない様な教育施策を実施してもらい、学校、先生によって異なる試験をして、「一緒の土俵で見てないのに何で同じ様な点数が付くの？」という、不信感を生まない様にするという事が大事だと思う。3点目は学校が、支援が必要だということを外にも発信して貰いたい。学校から困っている事を伝えられたら、地域の人は支えてくれるだろうと思う。PTAの方や地域のコーディネーターの方の知恵と学校の方針が合うと、やれる事はどんどん増えるのではないかとと思う。こういう事が成り立っていけば、成功例や失敗例を参考に色々なことで地域間の交流がで</p>

G委員	<p>き、そして子どもが成長していく事が楽しみだという人達が集まってくるのではないかと思う。何か一歩動いてつながるという事をやらなければならないが、市全体での取り組みもしなければならぬと思う。あと、つながる気持ちの土台を阻害するものとしては、IT化の利便性があるが、反面、ソーシャルネットワークサービスは、見えない相手ともつながり、良からぬ事で触れ合ってしまうという、恐ろしさも含んでいる。人間が幸せな生き方をするというのが教育の中でも大事な事で、何が幸せかという事を道徳に限らず折に触れて話を子ども達にしていかなければと思う。自分さえ良ければではなくて、人のために、世のために働いて自分が幸せとなる。そんな価値観を築いていく事が必要だと思う。</p> <p>今回のレポートも私自身が自治会長として現場の地域運営の中で感じた事を書かせて頂いた。一番思ったのは、自治会に関係ないところや3軒隣りくらいまでは良いのだが、それより少し離れた所では協力があまりないということを感じ、難しいと思った。人権教育については、この19日に人権教育研究大会があった。校区人権啓発委員会の方はとても意識が高く、皆さんボランティアだが、前向きで本当によくされていると思う。でも、そこにはやはり、行政の方の協力支援があるからこそボランティアの方の意識が高くなっているのだと感じた。しかし、それとは逆に残念なのが、同じ行政だが違うところでは、研修の参加者は回数を重ねるごとに減り、欠席者への対応もまだ考えているというような言葉が説明の中にあった。私自身でいうと、自治会長というのは人生の経験がないと本当に難しいということである。ただ、ありがたいのは、人生の先輩がいろいろな所で支援をしてくださり、その方々の支援があるからこそ何とか1年やってこられたのだと思う。だが、責任と権利という部分では、うまく次の世代に伝わっていないということを凄く感じたので、上の方から伝えて頂いた事は、次に伝えていかなければと思っています。</p>
F委員	<p>「近畿地区社会教育研究大会に参加して」ということで、この研究大会に行かせて頂き、分科会に参加をして刺激を受け、大変有意義であったという事から中心にまとめさせて頂いた。地域の特色を生かした活動で、社会教育委員自らがコーディネーターになられたというのが衝撃的な感じであった。それを中心に、行政と地域の連携がスムーズであるという研究発表であった。自分の所では思った部分で、昔からある地域では伝統的な行事もあり、そこで町づくりや人づくりがされているが、新興住宅地になると、それが難しい。意識的に高いレベルの方は結構おられ、個別に活躍されている方は多いのだが、それを地域でされているという方が少ない。そんな中で一つ思った事が、居場所がなくて地域でたむろしている子ども達を地域の祭りなどそういう場に引き出してあげられないかということである。地域と家庭の連携で地域行事やイベントの活動にその子達の居場所ができないかという思いがあり、書かせて頂いた。長年にわたって、自治会やコミュニティで会長をされていた方が、以前、まだ人も少ない新興住宅地で、地域の輪、人々の輪が、子どもを育てたり、人を育てたり、その地域を育てる事になるから、輪をとにかく広げる様な事を言っておられたことを、今になって色々と感じる。最後に地域にある公園に十何年間あった遊具が取り払われてしまった。それで子ども達はよく遊んでいたが、何か事故があったということで取り払われるらしいという話が聞こえて来た時には、もう取り払いますという事で自治会の回覧が来た。長年子ども達が遊んでいた遊具が、少し何かあった事で、簡単に取り払われたとしか思えない残念な事があった。情報が、聞こえてきた時に自分達ももっと活動すべきだったが、行政の方も教育として考えた時に危険性はあるが、沢山の子ども達が遊んでいたということも考えてほしかった。やはり、もっとアンテナを立てて色々な部分できちんと関わっていきたいという思いであると書いた。</p>

<p>D委員</p>	<p>社会教育委員というものは、どういうものかとずっと思いながら会議に参加し、それがなかなか活かしきれていないということをすごく思っている。協議した事が、先生方には伝わっていなかったのかと思う事がある。今年度、教育委員会でそれが良いということで司書を置かれたが、その思いと現場の思い、そして配置された司書の思いがかみ合わず、それぞれが皆一生懸命やっているのに、良い方向に進んでいないと思う場面が多くあった。年1回教育委員の方と話し合いの場を持っているが、それから何か進んでいるのか、自分自身が余り次へ進めていないという思いと、形式が色々あり、それがうまく活かせていないのではないかという思いがある。学校とボランティアをつなぐのも、校長や先生が異動になると、もうつながらなくなる。同じ学校であっても学年が違くと全然知らないというようなことで、そういう情報をもっとうまくつながっていけばという思いである。これからはもっとうまくつながるよう行政や先生間で連絡し合ってもらい、先ほど、「三方よし」と言っておられたが、皆が気持ち良くいられる様、なにか連絡を密にできる方法がないかと思った。</p>
<p>A委員</p>	<p>色々な方が良い事をしているのに、どうしてうまくつながらないのだろう、結果が出ないのだろう。行政内部にコーディネーター的なものがあるのではないかと。また社会教育委員の会に行政側が一体何を求めているのかが、私にはさっぱり分らない。例えば今、川西市の生涯学習や公民館の問題などでこういう事が懸念されるので、我々は一人ずつ独立してここに参加している訳であるので一般市民の良識を持って色々な事を言うて欲しいという立場であろうかと思うが、そういう会議の性格であれば、やはり市の方から何らかの議題というかテーマを頂いて一般の市民全員の意見を聞く訳にはいかないが、ある程度こういう意見が出ましたというようなやり方に持って頂いたら、少しは我々も力になれたのではないかという実感が持てるのではないかと思う。6回、社会教育委員の会があったが、非常に色々な話題が出て、議論が拡散してしまう様な感じをいつも持っている。今年度は、いじめの問題も沢山出て、社会問題にもなっていたが、川西市としてはいじめ対応マニュアルを作ったというのを聞き、それはそれで良かったと思う。あと、色々なボランティアの方の話や人とつながっていくという事の大切さも出たが、私は人とつながっていく事は必要な事なことではあるけれど、それがお節介にならない様に自戒する必要があるのではないかと思う。阪神北の資料読んでみると、学校支援地域本部の活動のところで、学校側にボランティアが入る事で先生が教育活動に専念できるとあるが、それは非常に良い事だと思うが、色々な制度ができてそれが動いていくと、様々なところで齟齬が出てくる。それと、私は裁判所の方で非常勤の公務員をしているが、今までは暗黙の了解で終わっていた様な事が、それでは済まない様な感じになってきているということをよく感じる。それは多分、人と人とのつながりが希薄になり、暗黙の了解が通じない日本の社会になりつつあるのかなというのをすごく感じる。</p>
<p>議長</p>	<p>今の川西の行政組織図を見ると、以前、生涯学習部であった部分が市長部局に分散し、職員も4分の1以下になっている。教育施設や社会教育施設は大変充実しているのだから、市として、生涯学習の位置付けを何か見えるものにして欲しいと感じる。ただ、この会の運営については、市長部局の担当の方にも出席して頂いていることは本当に感謝している。協力はして頂いているのだが、やはり柱的なものが欲しいなという事を最初に書かせて頂いた。あと去年も言わせて頂いているが、各学校に地域の諸団体、諸組織をまとめて地域の核となるような教育推進会議的なものがないかと思う。それと学校支援地域本部については、校長のリーダーシップをもう少し出して頂きたい。校長変われば学校が変わるという様な事でない施策と</p>

## 審 議 経 過

NO.7

	<p>いうものをお願いしたい。それと、最後になるが、公民館運営審議会が4年前まではあったが、公民館について、もっと市民参画ができ、市民自身が講座を企画していく様なものを考える必要があるのではないかと思う。もう一度公民館の位置付けというものを何らかの形で提言ができればと思った。</p> <p>任期は今年度で終わるが、委員として任命されているのだから、もっと活用して頂けたらありがたいという事を最後に申し上げたい。報告レポートについては、次会がないので、議長並びに副議長の方に一任をさせて頂き、3月中には教育委員会の方に提出をしたいと思うが、それによろしいか。</p> <p style="text-align: center;">(了承)</p>
議長	<p>最後に、その他に入らせて頂きたい。事務局の方から、社会教育委員の会に説明をしなければならぬ平成26年度の補助金予算についての発言を求められているので、よろしく願います。</p>
事務局	<p>「平成26年度の社会教育団体に対する補助金」についてのご説明を申し上げます。予算案については、現在開会中の市議会で審議されておりますが、PTA連合会などの4社会教育関係団体への補助金につきましては、本年度と同額を来年度も予定しております。個々の補助金の額を申し上げますと、先ず、川西市PTA連合会に28万3千円、川西市立幼稚園PTA連絡協議会に4万5千円、川西ユネスコ協会に9万円、川西婦人会に9万円であります。また、学校支援地域本部事業補助金については82万8千円であり、うち市からの補助金は27万6千円で、国・県からの補助金は55万2千円となっております。以上です。</p>
議長	<p>何かご質問等はないか。この会で報告しなければならない義務があるので、では報告の通り確認をしたという事で終わらせて頂きたい。他に事務局の方からないか。</p>
事務局	<p>今回の会議録の承認につきまして、通例であれば次回の会議の時に承認を頂くという形を取らせて頂いておりますが、今回の皆様の任期が3月31日までという事になっており、時間的余裕もございませんので、今回の会議録の調製につきましては、正副議長と事務局の方に一任頂ければというふうに考えていますが、議長、副議長、委員の皆さん、いかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(了承)</p>
議長	<p>それでは、事務局の説明通りご了解頂いたという事で、平成25年度第6回の社会教育委員の会をこれで終わらせて頂く。</p>